

2017/01/02

ご案内
**11th アジアデザイン文化学会国際研究発表大会
in 日本・沖縄・県立沖縄芸術大学
2017年10月28(土) - 29日(日)**

2017年を迎えました。皆さまご健勝にお過ごしのことと存じます。
本年度の11th アジアデザイン文化学会国際研究発表大会は、
日本国・沖縄県・沖縄県立芸術大学において開催いたします。

大会名称 第11回アジアデザイン文化学会国際研究発表大会
時 期 2017年・平成29年10月28日(土)～29日(日)
28日:国際研究発表大会 29日:エキスカージョン
会 場 沖縄県立芸術大学
(首里当蔵キャンパス:〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4)
主 催 アジアデザイン文化学会
共 催 沖縄県立芸術大学

国際研究発表大会の開催に合わせて、冊子版ならびにCD版の
「アジアデザイン文化学会論文集第11号」
(BULLETIN OF ADCS ISSUENo.11)を刊行します。
日ごろの研究・実践をまとめられた**学術論文**ならびに**ポスター論文**を、
別掲の趣旨をご賢察のうえ、奮ってご投稿ください。
また、沖縄県立芸術大学での国際研究発表大会にご出席ください。
国際研究発表大会は、アジアの国々・地域に生きる私たちが、一堂に会し、
それぞれのデザイン文化に関する研究・実践を交歓し、
デザイン文化研究・実践の発展・充実を思考する貴重な機会です。

アジアデザイン文化学会
総会長 宮崎清

アジアデザイン文化学会 ADCS 概説

アジアデザイン文化学会 (Asia Design Culture Society, ADCS) は、当時国立大学法人千葉大学理事・副学長であった宮崎清（現・千葉大学名誉教授）の呼びかけが機縁となり、2005年に創設されました。設立趣旨は、前頁をご覧ください。

以来、毎年異なる国・地域において国際シンポジウムを開催し、「デザイン文化」を核に据えた学術交流の場を設けてきました。その歩みは次のようです。2005年千葉大学における「ものづくり・ひとづくり国際シンポジウム」から始まり、2006年中国・江南大学「工業設計とデザイン文化国際シンポジウム」、2007年台湾・雲林科技大学「地方資源活用與地域振興国際シンポジウム」、2008年台湾・実践大学「文化創意産業発展新趨勢国際シンポジウム」、2009年韓国「デザイン文化の創造国際シンポジウム」、2010年中国・洛陽理工学院「アジアデザイン文化国際シンポジウム」、2012年日本・放送大学千葉学習センター「アジアデザイン文化学会の展望国際シンポジウム」、2013年台湾・高雄大学「アジアデザイン文化国際シンポジウム」、2014年日本・京都府伊根町「アジアデザイン文化国際シンポジウム」、2015年台湾・台北・銘傳大学「アジアデザイン文化国際シンポジウム」。そして、2016年には、中国の古都・南京に位置する南京林業大学にて、10th アジアデザイン文化学会国際シンポジウムを開催いたしました。これらの国際シンポジウムに対応し、これまでに、冊子版ならびに CD 版の「アジアデザイン文化学会論文集」(BULLETIN OF ASIAN DESIGN CULTURE SOCIETY ISSUE)を No.1～No.10 発行してきました。

本学会は、中国、韓国、台湾、インドネシア、バングラディッシュ、日本など、アジアの諸国・諸地域に支部を有する国際的学術団体です。設立以来、地域の歴史・文化、地域振興、まちづくりなどを核とした数多くの学術研究ならびに実践の成果を公開し、検討を重ねてきました。

多くの皆さまから論文が寄せられ、活発なシンポジウムが展開されますことを、期待しております。

アジアデザイン文化学会

総会長 宮崎清

中国支部会長：張福昌

韓国支部会長：朴燦一

台湾支部会長：黄世輝

日本支部会長：宮崎清

インドネシア支部会長：dudy wiyancoko

バングラディッシュ支部会長：masum iqbal

アジアデザイン文化学会ADCSのホームページURLは次です。

<http://asian-design-cultural-society.com>

11thアジアデザイン文化学会国際研究発表大会 学術論文ならびにポスター論文 募集領域

1. グローバリゼーションのなかでの地域固有のデザイン文化の継承・発展・創生

アジアは、悠久な歴史、多様な民族が共存する地域です。北から南まで、東から西まで、異なる地理や気候風土のなかで育まれた地域の生活文化は、実に個性的で、実に多様です。それぞれに豊かな価値観が内包されている地域固有の生活文化は、アジアの各所に生き生きと息づいてきました。

しかし、今日、地球規模での情報化・高速流通が進展するなかで、積み重ねられてきた地域固有の生活文化に大きな変容が生起しています。急速に増幅するグローバリゼーションのなかでそれぞれの地域がそれぞれのアイデンティティを維持・継承・発展させていくのには、どうしたらよいのでしょうか。

【キーワード】 グローバリゼーション、固有文化、生活文化変容、生活文化史、生活スタイル、フィールド調査、デザインサーベイ、生活空間、生活工芸文化、伝統と革新など。

2. 真の豊かさに通じる持続可能な共生環境デザインの維持・継承・創生

環境保全・グリーン生活という概念の台頭は、産業革命以来歩んできた消費行為に対する反省から生まれた重要な指標です。豊富な物質環境に満たされた生活を追求するために、私たちは自然資源を大量に搾取り消費してきました。その大量消費は、計り知れないほど自然環境に対する負荷を増大させてきました。

豊かな物質生活が豊かな精神生活をもたらすという保証はありません。劣化した生活環境は、より深刻な精神負担を惹起します。私たちは「真の豊かさ」をどのようにして築いたらいいのでしょうか。

歴史を顧みれば、先人たちは「もったいない」「足りるだけでよい」「八割の満足」の概念に基づく数多くの実践例をこれまでの生活文化のなかに表出してくれています。共生環境の維持・継承・創出は、私たちに課された喫緊の課題です。

【キーワード】 グリーンデザイン、環境保全、資源循環、3R、一物全体活用、天人合一、豊かさの指標、維持可能、共生環境、もったいない、少物生活、儉約志向など。

3. 地域が育んできた有形・無形のデザイン文化資源の再評価と地域振興

それぞれの地域が育んできた有形・無形の資源を総点検・再評価することのなかから地域社会の新たな地平を切り拓いていく方法の探究と実践が必要です。

有形(物質的なもの)の根底には無形(価値観・世界観)があります。無形の具体的反映が有形です。地域を理解・把握する作業は、この有形と無形を関連づけて総合的に考察せねばなりません。

いずれの地域振興も、有形と無形との総合的考察によってはじめて可能となります。

【キーワード】 地域活性化、地域デザイン、地域連携デザイン、地域資源活用デザイン、社区營造、地域工芸、生活技術、標・サイン、文化遺産、創意デザイン、伝統的造形、休閒文化、文化観光、観光デザイン、サービスデザイン、景観デザインなど。

■ **要旨募集：(期限厳守) 日付有効**

学術論文 2017年3月31日

ポスター論文 2017年3月31日

申込書に記入のうえ、次のアドレスにメールで申請してください。(期限厳守) 日付有効
1人の研究代表者が申請できる件数は、学術論文最大3件、ポスター論文最大3件です。

全投稿者：宮崎清 E-mail：miyazaki.kiyoshi@faculty.chiba-u.jp

中国籍：中国支部会長 張福昌 wfczhang@126.com

：中国支部事務局長 刘俊哲 liureal@hotmail.com

韓国籍：韓国支部会長 朴燦一 culture@konkuk.ac.kr

台湾籍：台湾支部会長 黄世輝 hwangsh@yuntech.edu.tw

日本籍：日本支部会長 宮崎清 miyazaki.kiyoshi@faculty.chiba-u.jp

インドネシア籍：支部会長 デュディ dudywiyancoko@gmail.com

ヴングラディッシュ籍：支部会長 マスミクバル masumiqbal@gmail.com

その他国籍者：総会長 宮崎清 miyazaki.kiyoshi@faculty.chiba-u.jp

■ **要旨審査・結果連絡：(期限厳守) 日付有効**

学術論文 2017年4月1日～4月30日

ポスター論文 2017年4月1日～4月30日

■ **投稿論文全文締切り：(期限厳守) 日付有効**

学術論文 2017年7月31日

ポスター論文 2017年7月31日

所定様式に打ち込んだ論文 WORD 版を、下記の総会長と支部会長にお送りください。

全投稿者：総会長 宮崎清

中国籍：中国支部会長 張福昌 & 中国支部事務局長 刘俊哲

韓国籍：韓国支部会長 朴燦一 台湾籍：台湾支部会長 黄世輝

日本籍：日本支部会長 宮崎清 インドネシア籍投：支部会長 デュディ

ヴングラディッシュ籍：支部会長 マスミクバル その他国籍者：総会長 宮崎清

■ **全文審査・結果連絡：**

学術論文 2017年8月31日まで

ポスター論文 2017年8月31日

注意！

上記日程に準拠しなかった場合には、論文投稿の意思がないものとみなします。
締切り日程の遵守をお願いいたします。

論文提出と審査の流れ

要旨募集 (期限厳守)

学術論文 2017年3月31日

ポスター論文 2017年3月31日

所定用紙に記入し、総会長および各支部会長に提出
論文、ポスター論文とも、最大3件まで/1人の代表研究者



要旨審査・結果連絡

学術論文 2017年4月1日~4月30日

ポスター論文 2017年4月1日~4月30日



全文締切り (期限厳守)

学術論文 2017年7月31日

ポスター論文 2017年7月31日

所定様式に準拠して作成し、全文を、総会長および各支部会長に提出



全文審査・結果連絡

学術論文 2017年8月31日まで

ポスター論文 2016年8月31日まで

大会における発表に関しては、最終審査合格者と連絡を取り、最終的に決定します。
ポスター論文は、大会当日、A1白紙に打ち出したものを、指定箇所に掲出してください。

注意 !

上記日程に準拠しなかった場合には、論文投稿の意思がないものとみなします。
上記日程の厳守をお願いいたします。

ADCS論文集NO.11

BULLETIN OF ASIAN DESIGN CULTURE SOCIETY ISSUE NO.11 について

- ADCS論文集NO.11に応募する学術論文ならびにポスター論文は、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、日本語のいずれかで作成します。すべて、審査論文になります。
- 1人の代表研究者が投稿できる論文数は、学術論文ならびにポスター論文とも、3件までです。
- 論文は、別掲の執筆要綱を遵守してお書きください。学術本文は、2ページ目からはじめ、6、8、10、12ページのいずれかで終わります。ポスター論文は、A4用紙1枚に凝縮したものです。
- 論文要旨が採択され、投稿論文全文が期日までに提出され、論文審査に合格すると、2017年10月刊行予定のADCS論文集NO.11(冊子版ならびにCD版)に掲載されます。
- 論文執筆者が負担する費用(下記の費用については若干の変更があるかもしれません)
論文審査・論文集費(冊子版)：掲載学術論文1件につきRMB400元(8,000円)
掲載ポスター論文1件につきRMB200元(4,000円)
論文審査・論文集費(CD版)：掲載学術論文1件につきRMB300元(6,000円)
掲載ポスター論文1件につきRMB150元(3,000円)
 - 掲載論文執筆者の代表1名には、冊子版論文集1冊もしくはCD版論文集1巻をお渡しします。
 - 掲載論文の共同執筆者には、冊子版1冊RMB200元(4,000円)、CD版1巻RMB100元(2,000円)で販売いたします。
 - 論文審査・論文集費が納入されない論文については、ADCS論文として審査・合格したものでないことを公告します。
 - 論文執筆者でなくても、論文集希望者には、冊子版1冊RMB200元(4,000円)、CD版1巻RMB100元(2,000円)で販売いたします。
- 論文集郵送・手数料
国際シンポジウムに参加されない論文執筆者には、ADCS論文集NO.10(冊子版もしくはCD版)の郵送・手数料として、RMB50元(1,000円)を徴収します。

■ 国際シンポジウム参加費 ■ 懇親会参加費 ■ エキスカーション参加費 ■ 宿泊の参考情報

11th アジアデザイン文化学会国際シンポジウムへの参加費、国際シンポジウム終了後の懇親会参加費、10月29日実施予定のエキスカーション参加費、宿泊参考情報などについては、別途、ご連絡します。

アジアデザイン文化学会論文集第11号
BULLETIN OF ASIAN DESIGN CULTURE SOCIETY ISSUE NO.11
学術論文 ポスター論文 要旨

- ※ この申込書は、**学術論文**は **2017年3月31日**（期限厳守）までに、
ポスター論文は **2016年3月31日**（期限厳守）までに、
 総会長および各支部会長宛に、メールでお送りください。
- ※ お1人の研究代表者が申請できる件数は、最大3件までです。

氏名： _____

所属： _____

E-mail： _____

論文種別	学術論文、ポスター論文の別をお書きください。
論文題目 テーマ	和文・中文・ハングル・英文のいずれかでお書きください 副題をつける場合は、副題もお書きください
	英文
論文領域	下記の論文募集領域番号をお書きください。
論文要旨 (Abstract)	下記の3つの領域における学術論文ならびにポスター論文に即して、記述してください。 1. グローバリゼーションのなかでの地域固有のデザイン文化の継承・発展・創生 2. 真の豊かさに通じる持続可能な共生環境デザインの維持・継承・創生 3. 地域が育んできた有形・無形のデザイン文化資源の再評価と地域振興
	英文・中文・ハングル・和文のいずれかでお書きください 中文・ハングル・和文の場合には、最終的に英文に翻訳いたします 長さは、中文・ハングル・和文の場合、700～800文字。 英文の場合、160 words。 A self-contained abstract should be a concise summary of the whole paper. Do not write just the conclusion as the abstract. Abstract should be written in approximately 160 words understandable without reference to the body article.